取扱説明書

この説明書はPWおよびPCフレームの操作方法、注意事項について解説しています。処方上の注意点（座り方・リクライニング角度・使用時間ほか）については処方者の指示にしたがって下さい。

PW Positioning Wheel Chair

PC Positioning Chair

PW・PCの特長

- ●ティルトリクライニング
- ●はね上げ式アームレスト・高さ調節付
- ●押し手グリップ高さ調節式
- ●座面奥行き調節付
- ●フットレスト高さ調節付
- ●両面（背座面）角度設定付
- ●折たたみ式（※バックサポートは取外式）

PW・PCを正しく、お使いいただくための、大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

目　次

- ● 安全にお使いいただくために‥‥P1・2
- ● 各部の名称‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P3・4
- ● 製品構成‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P3・4
- ● オプション部品‥‥‥‥‥‥‥‥P3・4
- ● 使用前点検‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P4
- ● 各部の取扱い‥‥‥‥‥‥‥‥‥P5～8
- ● 折たたみ方・開き方‥‥‥‥‥‥‥P9・10
- ● お手入れ・メンテナンス. 仕様‥‥P11
- ● 仕様‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P12

安全にお使いいただくために

本書記載以外の使用はしないでください。

⃠ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●警告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

⃠ 本人を乗せたままで放置しないでください。

⃠ はずみをつけたり、いきおいをつけて突き放すなどの移動（走行）はしないでください。

⃠ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部の破損など壊れた状態での使用はしないでください。

⃠ エスカレーターでは使用しないでください。（一般的にも禁止されています。）

⃠ 子供に操作させないでください。

⃠ 坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
（ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけていても勝手に走り出す場合があり大変危険です。やむをえず駐車するときは、必ず介助者が付きそってください。）

⃠ 座席や背もたれ、足台等に立たせないでください。

⃠ 本人を座らせたままで抱えて移動することは、大変危険なのでおこなわないでください。また、持つ位置によって各部の機構が急に動いてしまったり、フレームが急に折りたたむなどして、介助者の手をはさむおそれもあり、大変危険です。

❗ 乗せ降ろしをするときは、必ずブレーキをかけてください。

⃠ 火気に近づけないでください。シートに引火する、またはフレーム本体が熱くなり火傷するおそれがあります。

⃠ 自動車の中では使用しないでください。

❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。

⃠ 改造や分解はしないでください。

●注意（使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。）

- ❗ PW・PCフレームは構造フレームです。搭載される背もたれ座面などの支持部の調整や不具合については、製作業者にご相談ください。
- ❗ 医師の処方で製作された場合
  - ⃠本人以外での使用はしないでください。（個人用に処方されたものとなりますので、安易に貸し出したりしないでください。）
  - ⃠処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 段差を越えるときは、押し手グリップとティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングを行うと、フレームが破損したり、ケガをするおそれがあります。《くわしくは別紙ティッピング（前輪上げ）操作説明書をご覧ください。》
- ❗ エスカレータの出入り口付近（特に手すり巻き取り部）、エレベータ、自動ドア等の付近を走行するときは、キャスター部周辺などがはさまれないように注意してください。
- ❗ 悪路や坂道では特に注意して走行してください。バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などを挟まないよう注意して操作を行ってください。
- ❗ 折りたたんだ状態で持ち運ぶときは、車輪のついているベースフレーム（パイプ）部を持ち、下からかかえ上げるようにしてください。背・座フレームや可動部など、持つ位置によっては思いがけずフレームが拡がってしまうなどして、指や手をはさむおそれがあり大変危険です。
- ❗ 本人が座った状態でのティルトリクライニング操作は、体重がかかり急にティルトする（倒れる）ことがありますので、十分に注意して操作してください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどしてけがをするおそれがありますので、周囲の状況に十分に注意して使用してください。
- ⃠ 折たたみ、および開き操作の途中の段階では使用しないでください。
- ⃠ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⃠ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⃠ 子供を背もたれなどにぶらさがらせないでください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。
- ⃠ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⃠ 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⃠ 押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。（後方に倒れることがあります。）
- ⃠ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないで下さい。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ ティルトリクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- ❗ 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方者・取扱い業者のチェックを受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながることがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⃠ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。特にメカロックは、水にぬらさないよう注意してください。
- ⃠ 水中では絶対に使用しないでください。
- ⃠ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには（不要になったときには）販売業者にご相談ください。

各部の名称

PWフレーム

製品構成

PWフレーム

	個　数
● 基本フレーム	1

オプション部品

● NJ-2ヘッドレスト金具
● 介助ブレーキ
● 転倒防止装置

各部の名称

PCフレーム

製品構成

PCフレーム

	個　数
● 基本フレーム	1

オプション部品

● NJ-2ヘッドレスト金具

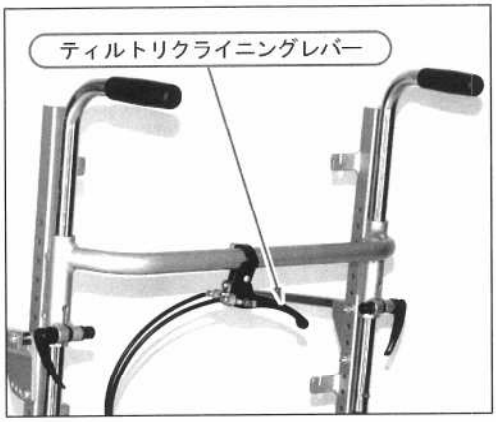
使用前点検

◎各部のロック部が確実に効いていることを確認してください。
◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。
◎リクライニング機構がスムーズに作動することを確認してください。
◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
◎破損しているところがないか確認してください。

各部の取扱い （PW・PCとも共通の取扱いです。）

●ティルトリクライニングレバー

背もたれからフットレストまでが一体となって、背座両面角一定のままティルトリクライニングします。



ティルトリクライニングレバーは、無段階で調節が行えます。レバーを握るとロックが解除され、握ったまま任意の角度に設定したら、レバーをはなしてください。その角度でロック（角度設定）できます。

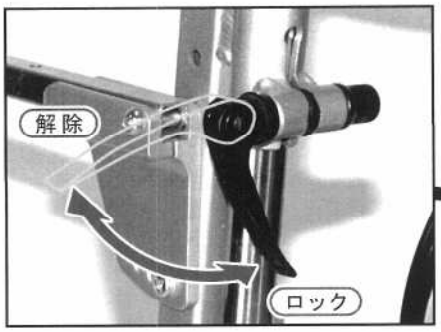
- ・ティルトリクライニングするときは、必ず両手で操作を行ってください。乗っている人の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。
- ・操作レバーのあそびが多くなってきたら、ワイヤーの張り調整をおこなって下さい。

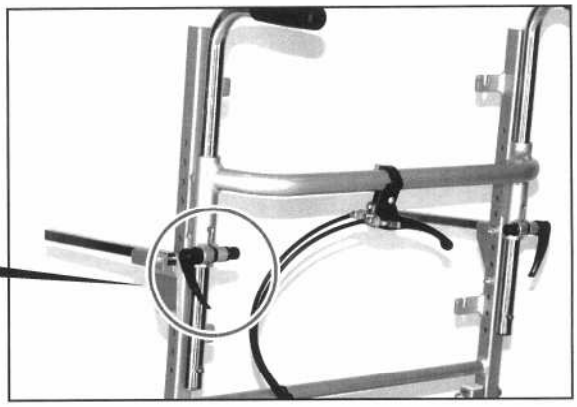
●押し手高さ調節

ワンタッチ操作でロックを解除することによりクイックレバーの押し手の高さと方向を無段階調整することができます。

クイックレバー

※レバーを水平に開くと解除、90度に曲げ込むとロックします。（別紙参照）
使用前にはロックが十分に効いていることを確認してください。





- ・押し手グリップの固定にはクイックレバーを使用しております。クイックレバーは、ワンタッチで強力な固定力を得られますが、一方で締め過ぎによって不具合が生じる場合もあります。別紙の調整方法にしたがって正しく調整をおこなってください。
- ・レバーは下側に向けてロックしてください。後方に向けてロックすると飛び出たようになり危険です。

●ブレーキ

PWフレーム

ブレーキレバーを下方に踏み込むとブレーキがかかります。
そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。

PCフレーム

PCのキャスターは後輪がトータルロック式です。キャスターについているプレートを下にさげると、ブレーキと首ふりの固定が同時にかかります。プレートを上にあげると解除されます。

移動するときは必ずブレーキを解除してください。ブレーキをかけたまま本機をひきずるとキャスターが破壊するおそれがあります。
特にじゅうたんやクッション性の高い床面など、すべりにくいところでは注意してください。

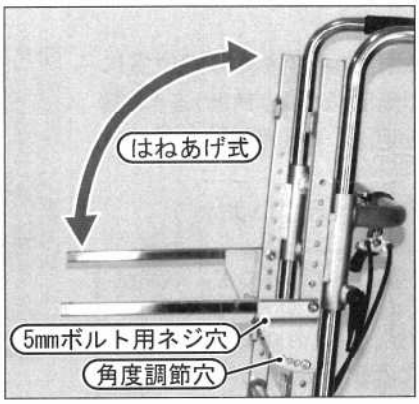
- ・乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- ・坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ・ブレーキの効きが弱く感じられる場合は販売店にご相談ください。

各部の取扱い （PW・PCとも共通の取扱いです。）

●アームレスト

・乗せ降ろしを横からもできるようにはね上げ開閉式となっています。

・使用される方の肘の高さに合わせてアームレストの高さを調節できます。（ボルト・ナットによる差し替え式）また、ティルト角度を倒し気味で設定した場合は、アームレストの角度調節穴と5㎜ボルト用のネジ穴で（テーブル面など）水平に近い角度に設定することもできます。

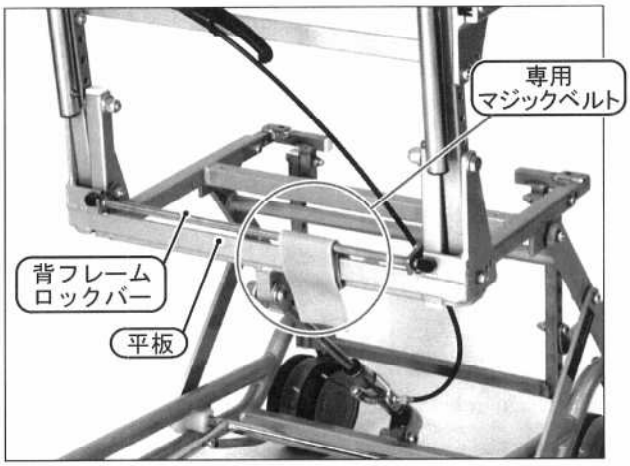


⚠ 開閉のロックはついていません。手ばさみや衣服のかみこみに十分注意してご使用ください。

●背フレームロックバー

・背もたれを折りたたむときは、専用マジックベルトをはがし背フレームロックバーを持ち上げて、前方に倒すように折りたたんでください。

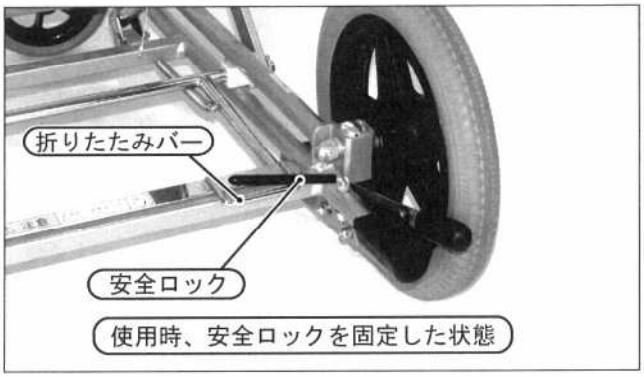
・折りたたんだ状態から拡げたときには、背フレームロックバーで背フレームをロックし、必ず専用マジックベルトで固定してください。背フレームロックバー（ステンレス8㎜丸棒）には、不用意にロック解除されないよう専用マジックベルトが取り付けてあります。右図のように、両面角設定金具をつなぐ平板と座フレームの角パイプにマジックベルトを巻くように貼り合わせてください。



⚠ ・背もたれを拡げたときは、背フレームを前後に軽くゆすってしっかりとロックされていることを確認してください。
・背もたれを折りたたんだり拡げたりするときは手や指をはさまないよう注意しておこなってください。

●折りたたみバーと安全ロックについて

折りたたみバーを解除すると、上フレームが下がりながら折りたたみます。折りたたみをするときは、まず安全ロックを解除してください。次に押し手グリップなどをしっかり持って、必ず上フレームの重さを支えながら、折りたたみバーを持ち上げて解除しゆっくりと折りたたんでください。
上フレームの重さを支えずに折りたたみバーを解除すると、急に上フレームが下がってくるため大変危険です。必ず手順を守って折りたたみの操作をおこなってください。



⚠ ・折りたたみバー
折りたたみをするときは、上フレームの重さをしっかりと支えてから折りたたみバーを持ち上げてください。折りたたみバーだけを不意に持ち上げると、急にフレームが折りたたまれ指や足などをはさむことがあり大変危険です。

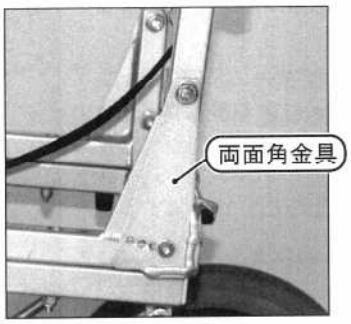
・安全ロック
折りたたみバーが不用意に持ち上がるのを抑えるための安全ロックです。使用中は必ず安全ロックをしてください。使用中に折りたたみバーが解除されると、上フレームが急に落ちるように下がってしまうため、非常に危険です。

各部の取扱い

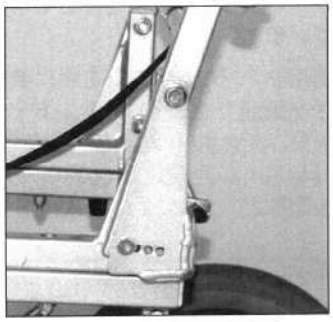
●両面角設定

背フレーム根本にある両面角設定金具の穴位置により、背・座フレームの両面角(開き角度)を4段階に設定できます。角度設定は、4.5度間隔で95度～108.5度の間で設定できます。
(ボルト・ナットにより設定されています。)

⚠ 背フレームを固定する重要な部分です。調節後は確実に固定してください。ゆるみ止めのナットを使用していますが、再三の調整でゆるみ止め効果が弱くなったときはナットを交換してください。



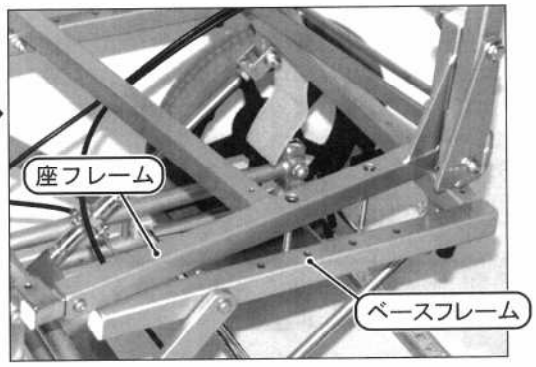
両面角95度設定


両面角108.5度設定

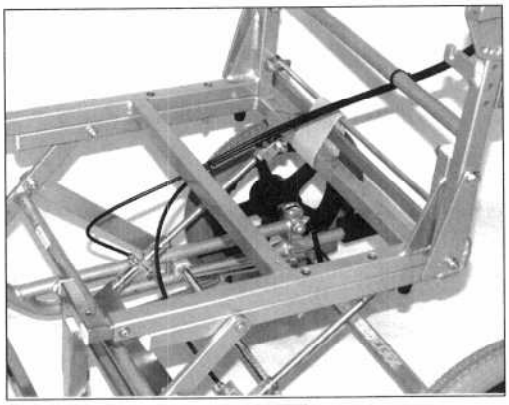
●上フレーム前後位置について

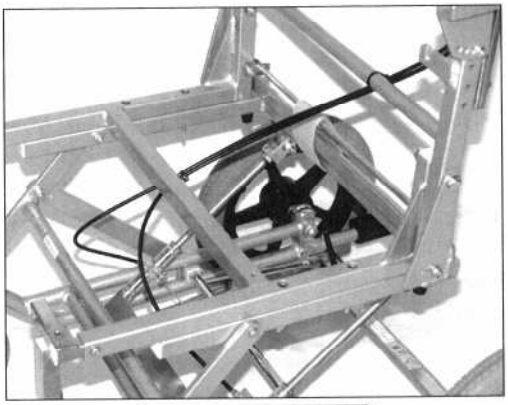
背・座フレームからフットレストまでで構成された上フレームと、車輪のついているベースフレームとの取り付け前後位置が調節できます。
座フレームをとめている4本のボルト・ナットをゆるめて外すと、上フレームとベースフレームが分割出来ます。
人が座った状態で、ティルトしたときに後方への不安定さが見られたときは、前方にずらした設定で組付けてください。

上フレームとベースフレームを分割した状態。片側2本(計4本)のボルト・ナットで固定されています。



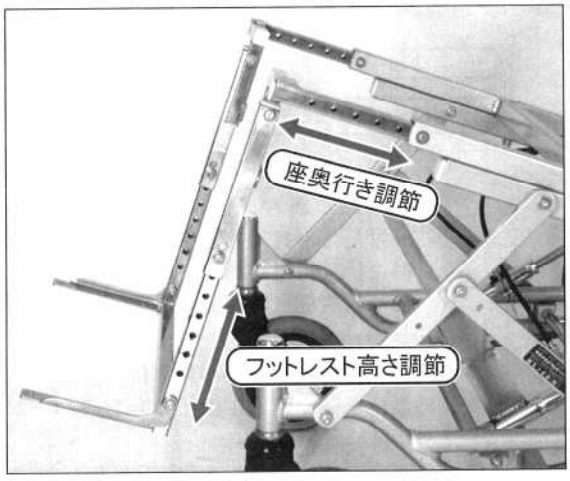
⚠ 上フレームとベースフレームを固定する重要な部分です。調節後は確実に固定してください。ゆるみ止めのナットを使用していますが、再三の調整でゆるみ止め効果が弱くなったときはナットを交換してください。


標準位置


前方に設定した状態

●座奥行き調節とフットレストの高さ調節

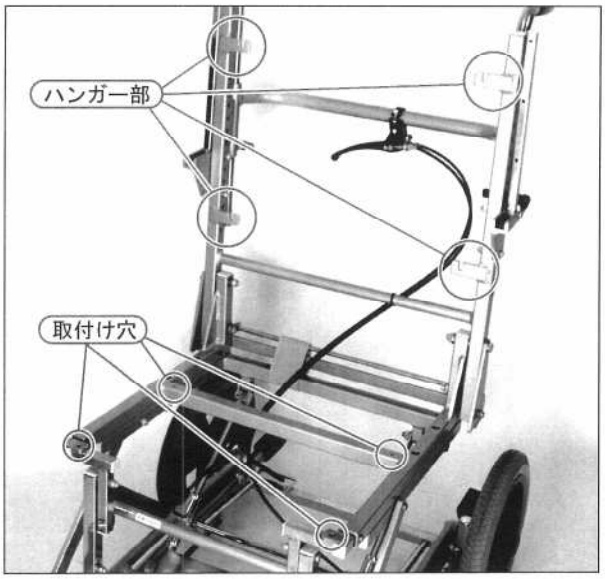
使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットレストの高さ調節ができます。
ボルト・ナットにより設定されています。
座奥行き調節は20㎜間隔で、フットレストの高さ調節は10㎜間隔で調節できます。(Sは20㎜間隔)



PWフレーム

●背もたれ、座面(支持部)の取り付け方法

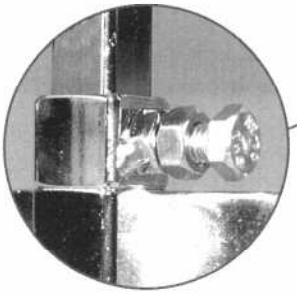
背フレームにある4ヶ所のハンガー部と、座フレーム本体、座奥行調節金具にある計4ヶ所の取付け穴で、背もたれ・座面(支持部)をタッピングビスやボルト類で取付けてください。

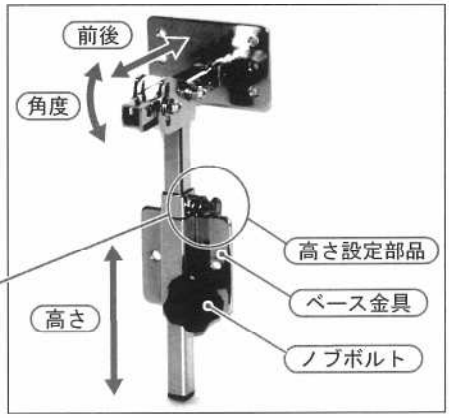


- 折りたたみをする場合は、バックサポート(背もたれ)を取外す必要があるため、バックサポートを取付けるビス・ボルトは取り外しを考慮して締めこむようにしてください。
- 背フレームハンガー部は、バックサポートを上方にスライドして取りはずすことを想定しています。しかし、使用時においてはバックサポートが不用意にはずれないよう、着脱用のベルト部品などで固定をしてください。

●NJ-2ヘッドレスト金具（オプション部品）

- NJ-2ヘッドレスト金具は、前後・角度・高さの調節がおこなえます。
- 前後方向、角度はボルト・ナットによる調節方法です。
- 高さは、ノブボルトで任意の高さに設定した後、高さ設定部品をNJ-2ベース金具の上面にあてて、六角ボルトを締めさらにナットを締めこんでください。ヘッドレストを取り外して再び装着しても、その高さ設定を一定に保つことができます。





●転倒防止装置(PW専用オプション部品)

使用されている環境条件(坂道や傾斜があるなど)や、またはティルトしたときの後方安定性に不安定な様子がみられたときは、転倒防止装置を取付けてください。

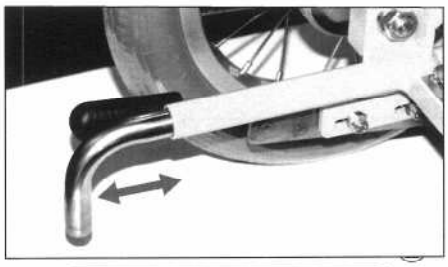
(取付け方法)

ティッピングゴムを外し転倒防止装置を差し込んでください。

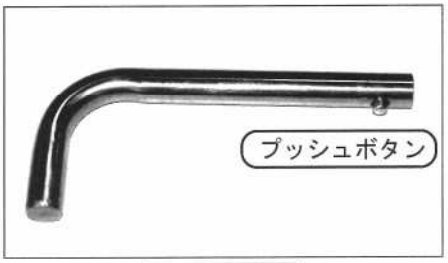
プッシュボタンを押しながら、パイプに差し込みます。プッシュボタンがパイプ下側にあけられた穴に飛び出て固定されます。

転倒防止装置の長さ設定は2段階で調節できます。

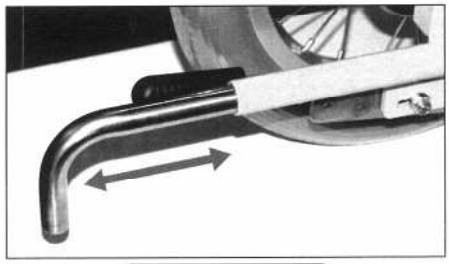
取り付けた後、または長さを設定を変更したときは、転倒防止装置が確実に固定されていることを必ず確認してください。



転倒防止装置を取付けた状態



転倒防止装置



長く設定した場合

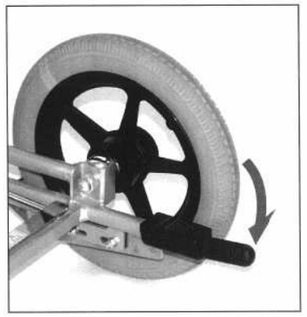
- 転倒防止装置は後方への安全を確保するためのものなので、ティッピングによる段差越えは困難になります。段差を越えるときは、段差の少ないところを探すか、後ろ向きに後輪から上がるようにしてください。
- 転倒防止装置と地面の間で足などを挟まないよう注意してください。

折たたみ方・開き方

- 折りたたみおよび開き操作のときは、各部が連動して動きます。指などを挟まないよう注意して操作をおこなってください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- 傾斜や段差がある不安定な場所では、作業をおこなわないで下さい。
- 折りたたみおよび開き操作時は、床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

〔折たたみ方〕

1 ブレーキをかける。



折りたたみ・拡げ時には必ずフットブレーキをかけてください。

※PCの場合は、後輪トータルロックキャスターをロックしてください。

2 ティルトリクライニングを起こす。

背もたれの後ろにあるティルトレバーを握り、ティルトリクライニングを最大に起こします。

3 バックサポート(背もたれ)を外す。

バックサポート(背もたれ)を上に引き上げるようにして、背フレームから取りはずします。

搭載される背もたれなどの支持部はそれぞれの販売店により製作・取り付けされますので、その着脱方法は販売店により異なる場合があります。

4 レッグサポートを上に持ちあげる。

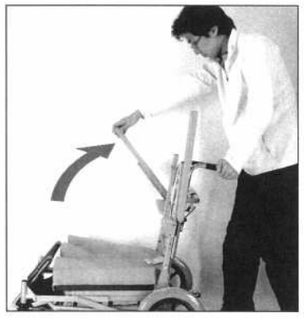
フットレストのあたりを持ち、レッグサポートを引き上げます。

5 ロックを解除して折りたたむ。

手や足をはさまないよう十分注意して操作してください。

折りたたみ安全ロックをはずし①押し手グリップを握ってしっかり重さを支えながら、②折りたたみバーを上げてフレームをゆっくりと折りたたみます。

6 アームレストをはね上げる。



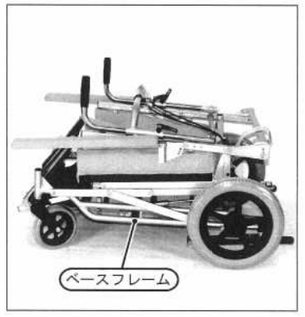
アームレストをはね上げてください。

7 背フレームを折りたたむ。

背フレームの根元にあるロックバーを上げて、背フレームを折りたたみます。(6ページ参照)

手ばさみ注意！

8 折りたたみ完了。

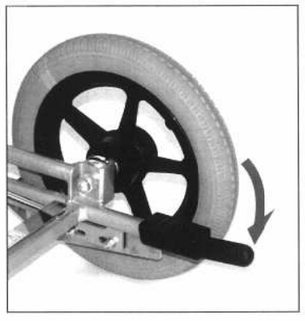


折りたたみ完了です。
(押し手を内側に向けるとコンパクトにできます。)

積み込みなどでかかえあげるときは、必ず後輪のついているベースフレームを持つようにしてください。

〔拡げ方〕

1 ブレーキをかける。



折りたたみ・拡げ時には必ずフットブレーキをかけてください。

※PCの場合は、後輪トータルロックキャスターをロックしてください。

2 背フレームを起こす。

背フレームを起こしたら、背フレームの根元にあるロックバーを下げ、背フレームを固定します。

必ず背座ロックベルトで固定してください。(6ページ参照)

手ばさみ注意！

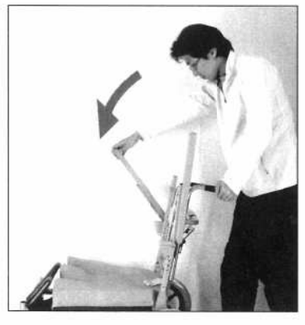
3 フレームを拡げる。

レッグサポートパイプと座面後方あたりを持ち、上方にフレームを引き上げるようにして拡げます。「カチャン」と折りたたみバーの引っかかる音がするところまでしっかり引きあげてください。

4 安全ロックを掛ける。

折りたたみバーの右側(右車輪)にある安全ロックをしっかりと掛けてください。

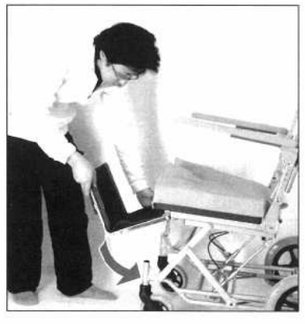
5 アームレストを開く。



アームレストをもとに戻します。

手ばさみ注意！

6 レッグサポートを下げる。



レッグサポートを止まるところまでおろします、フットサポートも止まるところまで開いてください。

手ばさみ注意！

7 背もたれを取り付ける。

背フレームにある4ヶ所のハンガー部に背(バックサポート)のビスを落とし込んで、背もたれを固定します。

搭載される背もたれなどの支持部はそれぞれの販売店により製作・取り付けされますので、その着脱方法は販売店により異なる場合があります。

8 ティルトリクライニング角度を設定する。

適切なティルト角に設定してご使用ください。

お手入れ・メンテナンス

- フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布地で拭きとってください。
  ※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
  ※特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- 可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
  ※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- 保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。
- 調整や修理などは、まずお買い上げのお店にご相談ください。

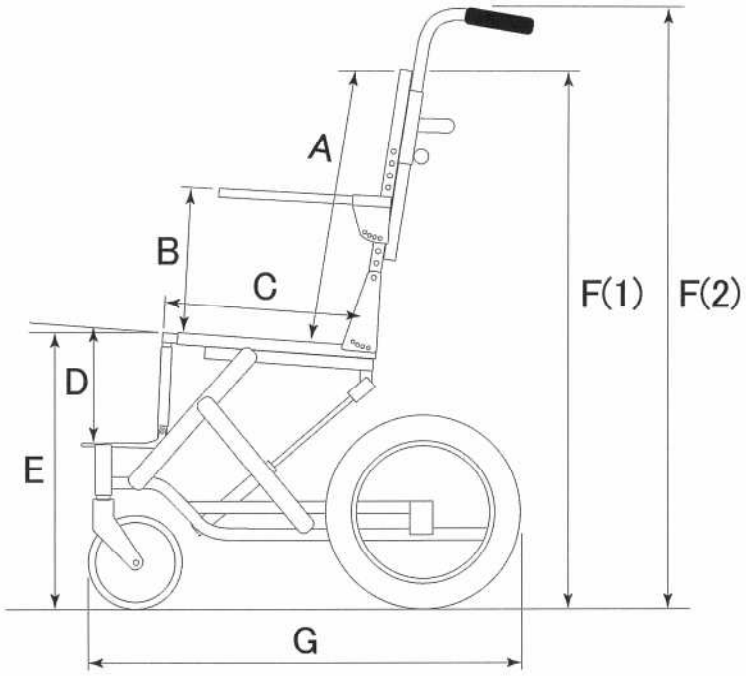
仕　様

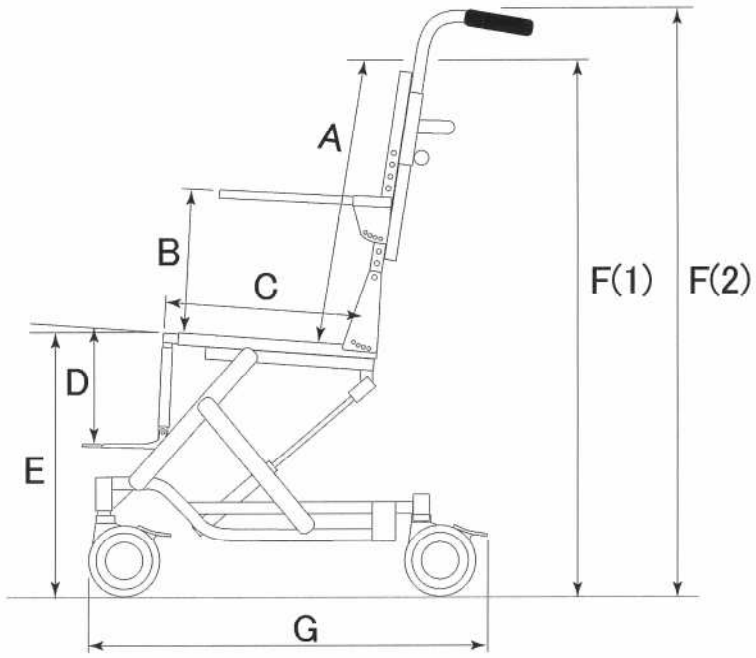
PWフレーム

	単位	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ	LLサイズ
フレーム全幅（アームレスト外～外）	mm	455	485	520	565
車　幅（タイヤ外～外）	mm	565	590	625	625
背　幅	mm	400	430	465	505（LLのみアームレスト金具内寸）
座　幅	mm	360	390	420	420
足台幅	mm	300	320	340	340
背高さ（A）	mm	365	435	500	545
肘掛高（B）	mm	195～255	195～315	190～370	250～430
座奥行（C）	mm	260～360	315～415	380～520	403～543
足台高（D）	mm	110～230	215～300	260～360	275～395
座　高（E）	mm	440	440	440	480
全　高（F）（ティルト最大起こし時）	mm	830（F2）	915（F2）	915（F1）/955（F2）	1000（F1）/1135（F2）
全　長（G）	mm	700	735	760	810

PCフレーム

	単位	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ	LLサイズ
フレーム全幅（アームレスト外～外）	mm	455	485	520	565
車　幅（タイヤ外～外）	mm	400	425	460	400
背　幅	mm	400	430	465	505（LLのみアームレスト金具内寸）
座　幅	mm	360	390	420	420
足台幅	mm	300	320	340	340
背高さ（A）	mm	365	435	500	545
肘掛高（B）	mm	195～255	195～315	190～370	250～430
座奥行（C）	mm	260～360	315～415	380～520	403～543
足台高（D）	mm	110～230	215～300	260～360	275～395
座　高（E）	mm	370	390	425	425
全　高（F）（ティルト最大起こし時）	mm	780（F1）/985（F2）	875（F1）/1095（F2）	950（F1）/1070（F2）	935（F1）/1060（F2）
全　長（G）	mm	675	685	735	785


A
B
C
D
E
F(1)
F(2)
G


A
B
C
D
E
F(1)
F(2)
G

販売業社名・連絡先

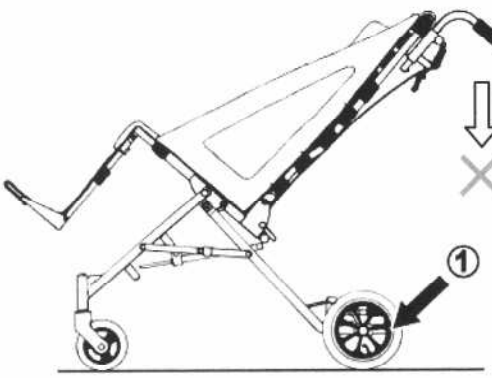
2010. 8. 25

製造・発売元　(株)　きさく工房　福岡県粕屋郡宇美町障子岳南5-10-11　TEL (092) 932-7600

ティッピング(前輪上げ)操作の方法

・ティッピング（前輪上げ）操作には
①ティッピングバー
②押し手グリップ
を用います。

①のティッピングバーの踏み込みと②の押し手グリップの手前引き寄せを同時に行ってください。容易に前輪が上げられます。



押し手グリップを手前に
引き寄せてください。
(※下方向ではなく手前に)

ティッピングを図のように(斜め前下方向に)踏み込んでください。
(※後輪を前方に少し送り出すようなイメージです。)

・ティッピング操作のときに、後輪前方ヌキは決して踏まないでください。
ティッピング操作が行いにくいだけではなく、フレームに過度の負荷がかかり破損の原因になります。
・ティルト(またはリクライニング)の起こし角によっては、前輪が上がりにくい場合もあります。
そのような場合は、下記の要領にしたがって段差越えをおこなってください。

ティッピング操作による段差越えが難しい場合は車体前方を直接持ち上げてください。

◎リクライニング車などは、後輪が後方に位置しているので、押し手グリップとティッピングバーの操作での段差越えが困難な場合があります。正しいティッピング操作でも無理におこなうと車いすが破損する原因になります。
そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

※ティッピングバーを利用せずに押し手グリップだけの操作で無理に前輪を上げようとすると、車いすが破損するおそれがあります。
必ず押し手グリップとティッピングバーの両方を利用してください。

押し手グリップだけの前輪上げは禁止